

27 下部尿路症状に対する竜胆瀉肝湯の使用経験

第一東和会病院 ウロギネコロジーセンター 女性泌尿器科
加藤 稚佳子、渡邊 成樹、鎌田 知子、柏原 宏美
竹山 政美

緒言：竜胆瀉肝湯は泌尿器、生殖器系の炎症性疾患、陰部湿疹などに使用される漢方薬であるが、尿路不定愁訴に対する漢方薬としては猪苓湯や清心蓮子飲を使用した報告の方が多数あり有効性が示されている。今回女性の下部尿路症状に対して竜胆瀉肝湯を使用したので報告する。

方法：2017年1月1日から2022年11月30日までに当院受診して竜胆瀉肝湯を処方された症例75症例（57名）に対して後ろ向きに検討を行った

結果：患者の背景として性別は女性で年齢は中央値68歳（31-88歳）、使用日数は中央値14日（3-392日）であった。複数回処方を受けた患者は10名で4名は観察期間中3回以上処方されていた。症状は陰部痛・排尿時痛などが15例、膀胱炎治療後46例、その他は14例であった。その他には慢性疼痛や外陰部の違和感、残尿感などが含まれている。症状別の転帰として陰部痛・排尿時痛では改善6、不変3、不明5、膀胱炎治療後では改善30、不変8、不明8、その他では改善3、不変3、不明8であった。陰部痛・排尿時痛の症例で下痢になり内服できなかつた症例が1例あった。

考察：竜胆瀉肝湯には構成生薬によりバリエーションがあり、日本の漢方エキス剤でも2種類ある。今回“薛氏”の処方であるツムラのエキス製剤を使用した。この処方は抗炎症作用が強いが実証の薬であるため高齢者には使いにくいという特徴がある。そのため今回短期間での処方を心掛けた。その結果今回の症例には高齢者も含まれるが1例を除いて内服可能であった。陰部痛・排尿時痛や膀胱炎治療後の症例では改善症例が多かった。一方その他の症例には慢性疼痛や外陰部の違和感、残尿感などの症例が含まれているが改善した症例が少なかった。また反復性膀胱炎の症例では竜胆瀉肝湯内服中に膀胱炎の再燃を認めた症例もあった。これらの結果から体質改善などの効果を期待する場合や慢性疼痛や痛み以外の症状には違う漢方薬の処方を考慮した方がよいと示唆する。急性の下部尿路症状で来院するものの尿検査所見が正常の場合治療に苦慮することがあるが、このような時に竜胆瀉肝湯は効果が期待できることが示唆された。